

## 第4節 世界経済全体の見通しとリスク

これまで、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの各地域の見通しとリスクをみてきたが、ここでは、これらを総合して世界経済全体について見通しとリスクを検討する。

### 1. 経済見通し（メインシナリオ）— 緩やかな回復が続く

世界経済は、失業率が高水準であるなど引き続き深刻な状況にあるが、景気刺激策の効果もあって、景気は緩やかに回復している。先行きについては、アメリカ、アジアでは回復傾向が続くと見込まれ、ヨーロッパでは基調としては緩やかな持ち直しに向かうと見込まれる。世界経済全体としては、緩やかな回復が続くと見込まれ、10年全体の実質経済成長率は3%程度になると見込まれる。

なお、国際機関及び民間機関の世界経済の見通しをみると、10年全体の実質経済成長率は、どちらもおおむね3%程度となっている（第3-4-1図、第3-4-2表、第3-4-3表）。

### 2. 経済見通しに係るリスク要因

見通しに係るリスクは、以下の上振れ、下振れの両方があるが、リスクは下方に偏っている。

#### ●下振れリスク

##### (i) ギリシャ財政危機のコンテイジョン（伝染）

ギリシャ財政危機に端を発した金融資本市場の混乱により、他のヨーロッパ諸国の財政状況や、ヨーロッパ諸国の金融システムに対する懸念が高まり、金融資本市場の変動が深刻化する可能性がある。株価の下落が一層進めば、資産効果を通じて世界各国の個人消費の伸びを抑制するほか、好転しつつある家計や企業のマインドを低下させるおそれがある。また、ユーロの下落により、EU向け輸出の割合が2割を占めるアメリカ、中国等で輸出が減速する可能性がある。こうしたことから、ヨーロッパを震源に、再び景気が世界的に低迷するおそれがある。

## (ii) 緊急避難的な財政・金融政策の拙速な転換による景気の腰折れ

世界金融・経済危機の発生後、各国政府・中央銀行が行ってきた、前例のない規模の財政拡大、金融緩和は、各国経済を下支えしてきたが、これらの政策を転換していく過程で、財政再建や金融引締めを開始するタイミングが早すぎたり、速度が速すぎたりした場合には、景気回復を阻害する可能性もある。

## (iii) 原油価格の上昇

原油価格は、10年に入り、緩やかな上昇基調で推移し、4月には85ドル超となり、5月半ばには70ドル程度となっている。景気の回復に伴って原油価格が上昇していく場合には、交易条件の悪化を通じて、原油輸入国（特にアメリカ）の消費を押し下げるおそれがある。

## ●短期的な上振れリスク

### (i) アメリカにおける消費の高い伸び

アメリカでは、10年に入ってから貯蓄率が低下し、家計のバランスシート調整が十分に進まないまま消費の伸びが高まってきている。こうした状況が今後も続く場合には、アメリカ向け需要の拡大により、短期的には、世界経済の景気回復が加速する可能性がある。

ただし、中期的には、アメリカの経常収支赤字が再び拡大するなど、グローバル・インバランスの問題が深刻化し、新たなリスクを生む可能性がある。

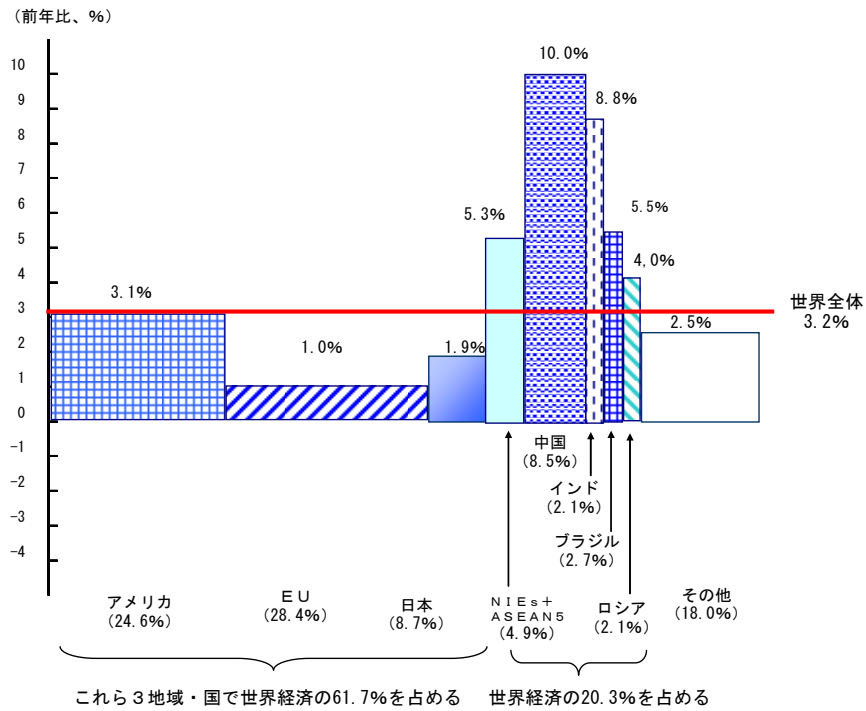
### (ii) 中国、インドを中心とした新興国における資産価格等の上昇

中国では、緩和的な金融政策が続いてきたことや、海外からの資本流入を背景に、資産価格が上昇している。インドにおいても、需要の回復などから物価が上昇するなど、アジア新興国を中心に、資産価格の上昇や物価の上昇がみられる。資産価格の上昇が、今後も続く場合には、資産効果を通じて短期的には成長率を高める要因となる。

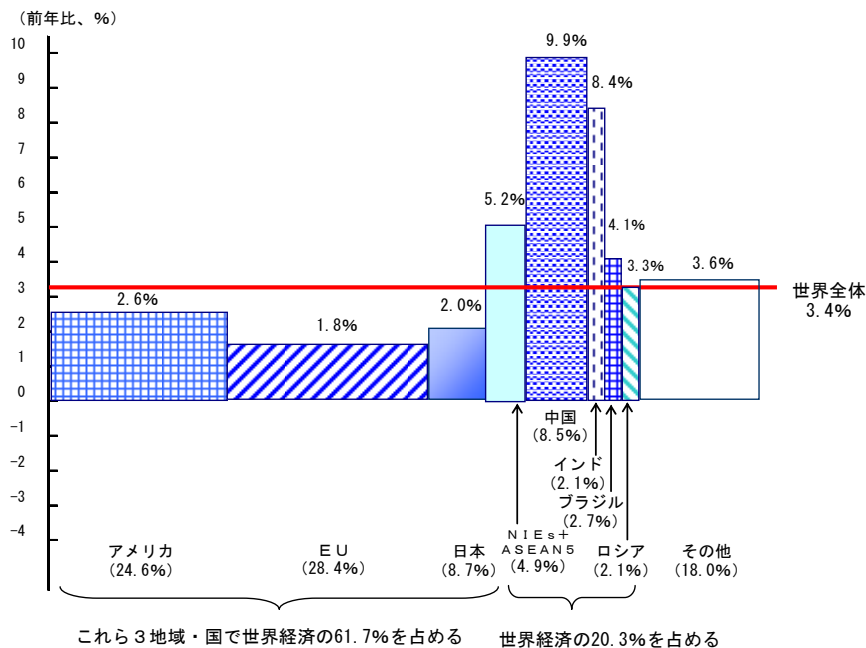
ただし、中期的には、資産価格の上昇やインフレの進行を放置した場合、後で大規模な金融引締めを行わざるを得なくなり、資産価格が急激に下落し、实体经济に悪影響を及ぼす可能性がある。

### 第3-4-1図 IMFによる各国・地域の実質経済成長率見通しと世界経済へのインパクト

#### (1) 10年実質経済成長率の見通し



#### (2) 11年実質経済成長率の見通し



- (備考)
1. IMF “World Economic Outlook Database, April 2010”より作成。
  2. 図の横軸は、各国・地域の世界経済に占める名目GDPシェア（括弧内、09年）を表しており、図の面積が世界経済へのインパクトの大きさと考えることができる。
  3. 世界全体の見通しには、図中の国のほか、中東、アフリカ、南米、ロシアを除くC I S諸国等合計約180か国程度が含まれる。
  4. 上記の数値は、市場レートベース。

第3-4-2表 国際機関による主要国・地域別経済見通し

実質経済成長率

<世界経済>

(前年比、%)

国際機関名	2008年 (実績)	09年 (実績)	10年見通し		11年 (見通し)
			[09年11月]	[10年5月]	
IMF (市場レートベース)	1.8	▲ 2.0	2.3 ↗	3.2	3.4
IMF (購買力平価ベース)	3.0	▲ 0.6	3.1 ↗	4.2	4.3
欧州委員会	2.9	▲ 0.9	3.1 ↗	4.0	4.0

<個別国 (3機関平均)>

(前年比、%)

国/地域名	2008年 (実績)	09年 (実績)	10年見通し		11年 (見通し)	
			[09年11月]	[10年5月]		
アメリカ	0.4	▲ 2.4	2.1 ↗	3.0	2.9	
アジア	韓国 (備考3)	2.3	0.2	3.4 ↗	5.1	4.8
	中国	9.6	8.7	9.6 ↗	10.5	9.7
	ASEAN5 (備考2、3)	4.7	1.7	4.0 ↗	5.4	5.6
ヨーロッパ	ヨーロッパ4 (備考2、3)	0.3	▲ 4.3	1.0 ↗	1.3	1.8
	ユーロ圏	0.6	▲ 4.1	0.6 ↗	1.0	1.6

- (備考) 1. 国際機関は、IMF (10年4月)、OECD (10年5月)、欧州委員会 (10年5月)。  
 2. 「ASEAN5」は、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム。  
 「ヨーロッパ4」は、ドイツ、フランス、イタリア、英国。  
 3. 個別国の実績、見通しは国際機関 (3機関) の単純平均値による。  
 「ASEAN5」はIMFの見通しを使用。  
 「ヨーロッパ4」は4か国の値を名目GDP (09年実績) でウェイト付けしている。

第3-4-3表 民間機関による主要国・地域別経済見通し

実質経済成長率

(前年比、%)

国/地域名	2000~2009年 〔過去10年 実績〕	2008年 (実績)	2009年 (実績)	2010年見通し		2011年 (見通し)	
				〔09年11月〕	〔10年5月〕		
世界経済 (33か国・地域)	3.2	2.2	▲ 1.4	3.0	↗ 3.6	3.7	
北米・ 中南米	アメリカ	1.9	0.4	▲ 2.4	2.7	↗ 3.2	3.1
	カナダ	2.1	0.4	▲ 2.6	2.3	↗ 3.0	3.0
	メキシコ	1.9	1.3	▲ 6.5	3.2	↗ 4.2	3.6
	ブラジル	3.3	5.1	▲ 0.2	4.3	↗ 5.5	4.6
アジア・ 大洋州	北東アジア	8.9	7.9	6.6	7.7	↗ 8.9	8.0
	うち中国	10.2	9.6	8.7	9.1	↗ 10.0	9.1
	ASEAN	4.7	4.2	1.0	4.4	↗ 5.3	5.3
	インド	7.2	7.4	6.4	7.0	↗ 8.0	8.2
	オーストラリア	3.1	2.2	1.4	2.2	↗ 2.9	3.3
ヨー ロッパ	ヨーロッパ4	1.1	0.3	▲ 4.4	1.3	→ 1.3	1.8
	ユーロ圏	1.4	0.6	▲ 4.1	1.3	↘ 1.1	1.8
	ロシア	5.4	5.6	▲ 7.9	3.0	↗ 3.9	4.2

- (備考) 1. 各国の実績は各国統計、見通しは民間機関見通し(10年2~5月発表)の平均値による。  
民間機関は、BLUE CHIP(10年53社、11年52社)、Economist Intelligence Unit、OXFORD ECONOMICS、JP Morgan、三菱東京UFJ銀行、野村証券、三菱総研、みずほ総研、国際金融情報センター。
2. 「世界経済(33か国・地域)」は、北米・中南米(4か国)+アジア・大洋州(10か国及び台湾)+ヨーロッパ(18か国)。「北東アジア」は、中国、韓国、台湾、香港。「ASEAN」は、シンガポール、インドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン。「ヨーロッパ4」は、ドイツ、フランス、イタリア、英国。「ユーロ圏」は加盟16か国(09年1月1日時点)。
3. 「世界経済」の実質GDP平均成長率は、33か国・地域の実質GDP成長率に名目GDP(09年実績)のウェイトを乗じて算出した値の合計値。「北東アジア」、「ASEAN」、「ヨーロッパ4」も同様に算出。名目GDPのウェイトは、33か国・地域の名目GDP総額に占める各国・地域の割合。名目GDPのウェイトは、33か国・地域の名目GDP総額に占める各国・地域の割合。
4. 上記の数値は市場レートベース。